

6月議会が閉会（6月29日）

天守閣木造復元関連議案は継続審査に 「2020年7月まで」は断念、2027年めざす？

6月29日に名古屋市会6月定例会が閉会しました。河村市長が提案した名古屋城天守閣木造復元に関連した議案6件は、継続審査となりました。

本会議では日本共産党の江上博之議員はじめ各会派の議員が天守閣木造復元問題をただし、減税の議員以外は節節に木造復元することに対して市長を追及しました。

経済水道委員会では当初2日間の審査日程を4日間に増やして審議し、4日目に自民党市議が、名古屋城天守閣の木造復元を認めたいうえで、完成を市長提案の2020年から、アジア競技大会（2026年）やリニア開業予定（2027年）に延期するよう提案し、河村市長も「2027年リニア開業などを目途に見直すことも名古屋市にとって大きな起爆剤になる」と答弁して継続審査が決まりました。



自民党の提案は、石垣工事から着手するというもので、手順は変わりますが、工期は最大3年伸びるだけ。すぐに現天守閣の取り壊しにかかり、木造化を拙速に進めるという点では、竹中工務店案と大差がありません。市長もマスコミに対し、「2020年完成もええが、木造でつくることのほうが不退転だった」と答えています。

天守閣取り壊しの拙速さに変わりはない

木造復元の完成時期を2026年あるいは27年まで延期したとしても、工期は10年足らずしかありません。2020年7月までに天守閣を復元するという竹中工務店の提案でも、後回しにした石垣工事まで完了する予定は2024年度ですから、石垣工事も含めると工期は8年になります。

緊急に耐震改修し、ゆっくりと検討を

市民アンケートでは、「2020年7月にとらわれずに木造復元を行う」と回答した人が4割と最多でしたが、この回答を選択した人のすべてが、現天守閣の耐震改修を否定したと捉えることはできません。まずは耐震改修を行い、将来、建て替えが必要になった時には、コンクリートでなく木造で復元すべきと考えて、この回答を選択した市民も少なくないと思います。

天守閣の耐震性に危険があるというのなら、まずは耐震改修を急いで行き、木造復元については数十年かけて市民的な議論を行えばよいのではないのでしょうか。

平成24年度名古屋城天守閣木造復元概算経費・工期算出調査による工期

区分	工期
解体工事	約3年
石垣工事	約9年
復元工事	約6年
全体	約18年

継続審査になった議案（6件）

議案名	備考
2016年度名古屋市一般会計補正予算（第3号）	補正額 9,958万6千円。天守閣事業資金の貸出5700万円、国際展示場第1展示館の整事業者選定の審査委員の報酬25万円、名古屋城の石垣調査5000万円など。
2016年度名古屋市名古屋城天守閣特別会計予算	天守閣木造復元のための会計を新設。まず10億1,070万3千円。実施設計や準備工事、職員人件費3か月分など。
2016年度名古屋市基金特別会計補正予算（第3号）	補正額 9,958万6千円。財政調整基金の積戻。
2016年度名古屋市公債特別会計補正予算（第1号）	補正額 9億5,733万4千円。天守閣事業のための起債。
名古屋市国際展示場新第1展示館整備事業者選定審議会条例の制定	現行展示場の改築のための名古屋市国際展示場新第1展示館整備事業者選定審議会を設置。2016年8月1日
名古屋市特別会計条例の一部改正	名古屋城天守閣事業の経理を区分するためと、起債を受けるには特別会計の設置が必要なため

